受賞者決定

2026 年 11 月 26 日
一般社団法人軽金属学会

2026 年 11 月 26 日開催の第 112 回理事会にて，以下の受賞者を決定しました。

第 30 回軽金属学会賞

第 29 回軽金属学会功労賞

第 25 回軽金属功績賞

受賞者一覧は別紙をご覧ください。

受賞者の表彰は、2027 年 5 月 14 日(金) 13:30～14:30 北海道大学 札幌キャンパス で開催される軽金属学会第 152 回春期大会表彰式にて表彰を行う予定です。

以上

第 30 回軽金属学会賞

松田（まつだ）　健二（けんじ）　君　　富山大学　教授　博士(工学)

第 30 回軽金属学会賞

受賞者　松田 健二 君　富山大学 教授 博士(工学)

受賞理由

松田 健二 博士は，軽金属材料，特に実用アルミニウム合金の時効析出過程の解明において，長年にわたるアルミニウム合金の硬さやミクロ組織などの基礎データ収集をベースに，高分解能透過型電子顕微鏡（HRTEM）やエネルギーフィルタ高分解能透過型電子顕微鏡（EFTEM）を駆使し，ミクロ・ナノサイズの各種析出物の構造解析を詳細に行い，学術および工業技術の発展に多大な貢献をしてきた。

特筆すべき業績として，アルミサッシ部材として広く利用され，軽量化を目的に自動車ボディへ適用された Al-Mg-Si 合金の強化相に関する研究が挙げられる。数十～200 nm の針状中間相の構造を HRTEM 法で一つひとつ観察・解析するという，当時としては大変地道で膨大な研究を遂行し，その結果，この相が六方晶であり，針状形状の長手方向が六方晶の c 軸に平行で，母相に対して特定の結晶方位関係をもつことを初めて見出した。さらに，この中間相 β'の組成が Mg:Si≠2 であることや，その前駆相の β''相が強化相として重要であることも提案した。

また，高強度の過剰 Si 組成 Al-Mg-Si 合金においては，平衡状態図には存在しない Si-Al-Mg 三元系の異なる 3 種類の化合物を，抽出した化合物を回転させて HRTEM 像と電子回折図形を得るという緻密な実験手法により，世界に先駆けて発見・公表した。さらに，電子線ダメージにより観察が困難であった Guinier-Preston (G.P.) ゾーンあるいは溶質クラスタについて，加速電圧を 100～120 kV に調整することで初めて画像化に成功し，その化学組成が Mg/Si=1 であることも提案した。この成果は当時の平衡状態図からは予測できない画期的なものであり，2014 年にはアーヘン工科大学の研究グループにより「Matsuda-phase」と名付けられるなど，国際的にも極めて高い評価を得た。

研究テーマは常に軽金属メーカーへの還元を前提としており，微量添加元素の影響や時効条件など多くのパラメータを変化させた実践的なアプローチは，昨今の脱炭素社会に向けたアルミニウム合金リサイクルや，現在の技術開発テーマにも継承されている。さらにノルウェーや EU，アジア諸国との国際共同研究にも尽力しており，近年では，高強度 Al-Zn-Mg 合金や Mg 合金の研究，さらにはミュオンスピン緩和（μSR）法を用いた原子空孔と溶質クラスタの挙動調査へと研究領域を広げている。

研究活動のみならず，学会運営においても多大な貢献を果たしており，常設委員会委員，研究部会の新設と運営，北陸支部活動に尽力したほか，3 回の講演大会実行委員会委員長を歴任し，2022 年には日本で開催された第 18 回アルミニウム合金国際会議（ICAA18）で実行委員長を務め，見事に成功へと導いた。

以上のことから，松田 健二 博士は卓越した学術的研究，工業的技術発展への寄与，ならびに本学会に対する多大な貢献が高く評価されるため，第 30 回軽金属学会賞に相応しいと判断し，ここに表彰する。

松田　健二 （まつだ　けんじ）
富山大学　教授　博士(工学)

１．略歴

1988 年 3 月　富山大学大学院工学研究科修士課程 金属工学専攻 修了
1988 年 4 月　富山大学 工学部 教務職員
1995 年 4 月　富山大学 工学部 助手
1997 年 3 月　博士（工学）取得（東京工業大学）
1998 年 4 月　米国バージニア大学 客員研究員
2000 年 4 月　富山大学 工学部 助教授
2008 年 11 月　富山大学 大学院理工学研究部 教授
2017 年 4 月　富山大学 研究推進機構研究推進総合支援センター長
2018 年 4 月　富山大学 評議員, 都市デザイン学部副学部長
2020 年 3 月　富山大学 工学部附属先端材料国際共同研究センター長
2020 年 4 月　富山大学 先進アルミニウム国際研究センター長・同専任教授
2021 年 4 月　富山大学 先進アルミニウム国際研究センター 副センター長
（現在に至る）

２．主な受賞歴

1995 年 11 月　軽金属学会　平成 7 年度軽金属論文賞
2004 年 11 月　軽金属学会　第 3 回軽金属躍進賞
2009 年 11 月　軽金属学会　平成 21 年度軽金属論文賞
2010 年 11 月　日本銅学会 第 44 回論文賞
2011 年 11 月　軽金属学会　60 周年記念学術功績賞
2014 年 5 月　軽金属学会　第 12 回軽金属功績賞
2019 年 9 月　日本金属学会 第 17 回学術貢献賞
2020 年 11 月　軽金属学会　令和 2 年度軽金属論文賞
2021 年 11 月　軽金属学会　70 周年記念功労賞
2023 年 9 月　日本金属学会　第 71 回論文賞
2026 年 5 月　日本鋳造工学会 功労賞
2026 年 11 月　軽金属学会　2026 年度軽金属論文賞

３．軽金属学会での主な活動歴

2006 年 4 月　北陸支部長（現在に至る）
2012 年 5 月　理事（～2016 年 5 月）
2013 年 6 月　第 124 回春期大会実行委員長
2014 年 4 月　ミュオンスピン緩和スペクトル法の工業的応用研究部会部会長（～2018 年 3 月）
2017 年 4 月　アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会部会長（～2021 年 3 月）
2017 年 5 月　副会長, 総合計画委員会委員長（～2019 年 5 月）
2019 年 5 月　第 136 回春期大会実行委員長
2019 年 10 月　第 18 回アルミニウム合金国際会議（ICAA18）実行委員会委員長（～2022 年 9 月）
2025 年 5 月　理事, 国際交流委員会委員長（現在に至る）
2026 年 5 月　第 150 回春期大会実行委員長

第 29 回軽金属学会功労賞

【特別功労賞】

中沢　靖 君　　元 株式会社本田技術研究所

【特別功労賞】

受賞者　中沢　靖　君　　元　株式会社本田技術研究所

受賞理由

中沢　靖　君は、1983 年に本田技研工業株式会社に入社し、株式会社本田技術研究所に配属され、アルミニウムの材料・素形技術を主体として自動車用構造部材の研究開発を行ってきた。2000 年から約 5 年半のイギリス駐在では金属全般はもとより，樹脂/内装/塗装/接着など広範囲の材料を担当し知見を広げた。また，2009 年の本田金属技術株式会社出向時はリーマンショック直後であったことから生産が極端に低迷したが，鋳造の現場現物をベースとした改善や新技術開発を強力に指導した。最も深く関わった分野は鋳造，押出，接合技術であり，解説並びに連載講座記事が「軽金属」誌に掲載されている。

2015 年に総務委員会および研究員会の委員に就任し，2017 年からは理事として両委員会の副委員長を務めた。研究委員会では軽金属ロードマップを作成し，総務委員会では他の常設委員会と協力して長期ビジョン作成に貢献した。その他，論文賞等各賞の推薦委員会・選考委員会,総合計画委員会生産技術 WG，創立 70 周年記念ホームページグループ長など多方面で学会活動に参加し，2017 年度から 2022 年度まで理事を，2023・2024 年度は監事を担当し，学会運営および監理の立場からも貢献した。2015 年度から 2018 年度まで異種材料接合・界面研究部会，2019 年度から 2023 年度までアルミニウム接着接合研究部会のアドバイザーを務め，研究部会活動の活性化にも尽力した。また 2011 年から 2024 年まで秋期大会の実行委員として，ホンダの車両並びにそれに採用された軽金属部品を技術説明ポスターと共に展示し，多くの大会参加者の関心を集め，人材育成や会員交流の活性化にも大きく貢献した。

以上のように同君の軽金属分野の技術の進展と本学会の発展への貢献は極めて顕著であると認め，ここに軽金属学会特別功労賞を授与する。

【功労賞】

浅野　峰生　君　　株式会社 UACJ　マーケティング・技術本部
R&D センター　板・鋳鍛製品開発部　部長

森下　誠　君　　株式会社神戸製鋼所　技術開発本部
プロセス技術センター　上席研究員

受賞者　浅野 峰生 君　　株式会社 UACJ マーケティング・技術本部 R&D センター
板・鋳鍛製品開発部 部長

受賞理由

浅野 峰生 君は 1997 年に住友軽金属工業株式会社（現 株式会社 UACJ）に入社後，主に自動車用アルミニウム合金板，家電用アルミニウム合金板の研究開発および製造技術開発に従事してきた。基礎的な研究成果を基に，曲げ加工性に優れたボディパネル材，曲げ加工性および導電性に優れたバスバー材，プレス成形性に優れた放熱部材や二輪燃料タンク材，陽極酸化処理後の表面品質に優れた IT 筐体材等，多くの開発・実用化に成功している。また，その研究成果の一部を軽金属学会講演大会，アルミニウム合金国際会議（ICAA），研究論文などで発表している。これらの功績が評価され，第 14 回軽金属躍進賞（2015 年度），第 51 回小山田記念賞（2016 年度）を受賞している。

軽金属学会では，2009 年以降，座長，ポスター審査員，投稿論文の査読者を務めている。また，中強度アルミニウム合金の材料物性部会，研究委員会常設部会，アルミニウム合金圧延材の組織形成予測部会，ミュオンスピン緩和スペクトル法の応用研究部会の委員として参画し，アルミニウム合金の基礎研究を牽引している。そのほかにも研究部会での話題提供，軽金属シンポジウムでの講演も行っており，本学会の発展に大いに貢献してきた。

以上のように同君の軽金属学会に関する功労は極めて顕著であり，ここに軽金属学会功労賞を授与する。

受賞者　森下 誠 君　　株式会社神戸製鋼所 技術開発本部 プロセス技術センター
上席研究員

受賞理由

森下 誠 君は，1992 年に株式会社神戸製鋼所に入社以来，アルミニウム合金の溶解精錬・鋳造凝固に関する研究開発および製造技術の高度化に一貫して従事してきた。特に，DC 鋳造における凝固割れについて，熱力学的知見に基づき，合金成分による割れ感受性を簡易に予測する独自手法を提案し，実用化に結び付けた。この業績により2010年度軽金属論文賞を受賞した。また，水冷能力のばらつきや蒸気発生が鋳造安定性に及ぼす影響を明らかにして制御条件を提案するとともに，凝固時に生成する晶出物の量と種類を予測する技術を構築し，材料設計に有用な手法を提示した。これらの成果により第 10 回軽金属躍進賞を受賞するなど，溶解・鋳造・凝固分野の学術および産業技術の発展に大きく貢献した。 軽金属学会では，溶湯と耐火物の反応・浸食機構等に関する研究部会の委員・幹事を務め，産学の知見共有と研究活動の活性化に寄与した。また，編集委員会編集幹事，大会運営委員会，企画委員会，国際交流委員会等の委員を歴任し，論文査読や講演大会の座長，ポスター審査にも携わるなど，学会運営に尽力した。さらに，軽金属基礎技術講座およびタイセミナーの講師を務め，基礎技術の普及，人材育成ならびに国際的な技術交流にも貢献した。 以上のように，同君の学術・産業技術および学会活動を通じた功労は極めて顕著であり，ここに軽金属学会功労賞を授与する。

第 25 回軽金属功績賞

染川　英俊　君　　国立研究開発法人物質・材料研究機構
構造材料研究センター　軽金属材料研究グループ
グループリーダー

受賞者　染川 英俊 君　　国立研究開発法人物質・材料研究機構
構造材料研究センター 軽金属材料研究グループ グループリーダー

受賞理由

染川 英俊 君は，予測，創製，評価，解析からなる一気通貫して行う研究体制のもと，主にマグネシウム（Mg）合金の高性能化に関する研究に従事してきた。

多様な評価，解析法を駆使し，Mg の脆弱さの要因が変形双晶に起因することを究明し，双晶の形成抑制や低減を主題とした階層的組織制御により，強度と延性（靭性）の二律相反関係の克服に成功した。また，加工熱処理をともなう金属材料創製において不可避である「偏析」を特性高度化因子として活用し，力学特性や変形機構が偏析元素に影響を受けることを見出だした。特に，Mn や Li 元素の粒界偏析が室温粒界すべりを促進し，延性や二次加工性の改善に有効であることを実証した。更に，変形双晶が禁忌な因子であることを理解しつつ偏析と組み合わせることで，偏析元素が双晶界面上の原子間結合状態を変化させ，twinning/detwinning に関連した双晶界面移動能や pinning 効果に不随した強化機構に影響を及ぼすことを究明した。適切な双晶界面偏析元素の選択によって，強度のみならず減衰能やき裂進展挙動などの制御が可能となり，変形双晶に対する否定的な印象払拭に大きく寄与した。最近では，電気化学特性に及ぼす組織学的影響因子を再検討し，二次電池負極材の開発にも挑戦している。これらの研究成果について本会春秋期大会を通じて継続的な発信を行っている。

以上のように，同君は Mg を中心とする軽金属材料分野において卓越した業績を挙げ，当該分野の発展に大きく貢献しており，ここに軽金属功績賞を授与する。